

# 家族の時間を生み出す 若年層世帯の住まい

若年層世帯は経済的基盤が薄く、家賃支払い能力に不安を抱かれることが多い。また、家庭内における子どもの転倒・転落などの事故も多く発生している。

## 01 入居者の想定

【若年層世帯】

- ・妻、夫ともに20歳
- ・未就学児の2歳の子ども
- ・現在、妻は専業主婦、夫は会社員
- \*子どもが小学校低学年になるまで住み続ける想定とする

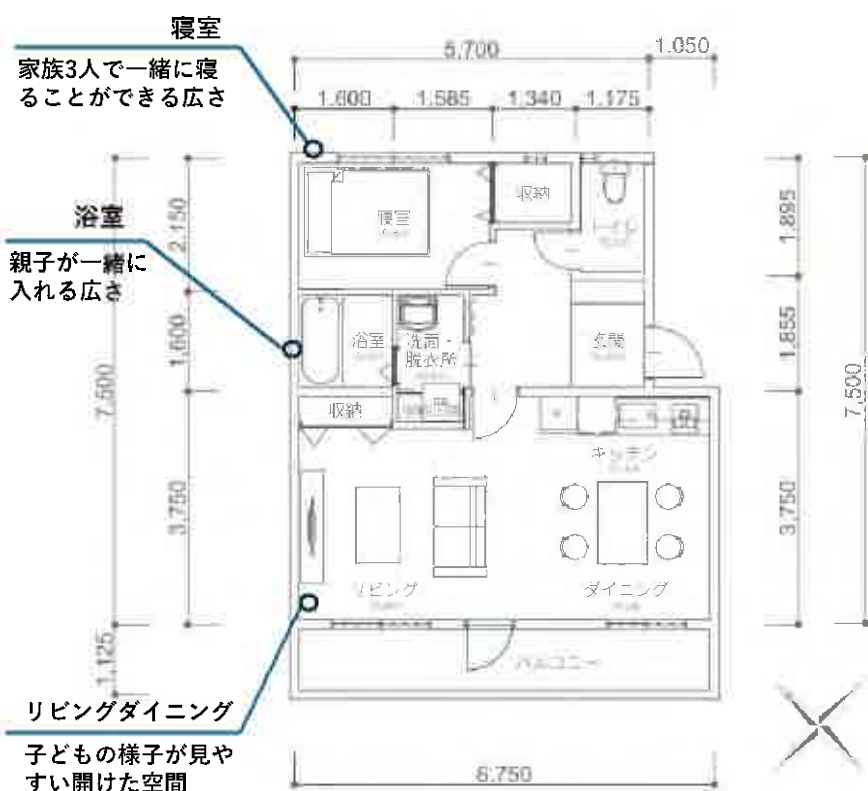
## 02 入居者が必要とする住環境

- ・子どもが安全に暮らせる環境
- ・家族が一緒に過ごすための広い空間
- ・経済的負担の少ない家賃

## 03 既存住宅の課題

- ・浴室が狭い
- ・キッチンが独立しており、料理中に子どもの様子が確認できない
- ・居室が狭く、家族3人が同じ空間でゆったりと過ごせる空間が少ない

## 04 平面図



## 05 提案の方針

- ①家族で一緒に過ごす時間を育む住まい
- ②小さな子どもがいても安心して暮らせる住まい
- ③改修が小規模で、家賃負担の少ない住まい

## 06 提案内容の詳細

### ①家族で一緒に過ごす時間を育む住まい

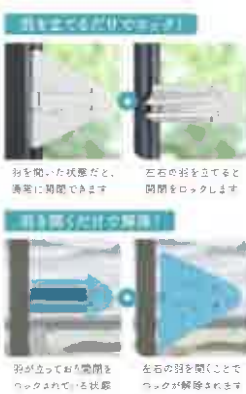


- ・広いリビングダイニングではそれぞれが別々の行動をしていても、家族が自然に同じ空間で過ごすことができる。
- ・開けた空間であるため、子どもの様子を確認しやすい。
- LDKを家族の生活の中心に

- ・寝室は家族3人で一緒に寝ることが可能な広さを確保。
- ・一緒に寝ることで、親にとっても子どもにとっても不安なく、安心して就寝することができる。



### ②小さな子どもがいても安心して暮らせる住まい



- ・窓ストッパーや指挟み防止器具を使用し、家庭内での子どもの事故を防ぐ



- ・浴室は親子が一緒に入れる広さを確保。親は子どもが浴室で転倒や溺水しないように、見守りながら入浴が可能。

### ③改修が小規模で、家賃負担の少ない住まい

新しく部屋を作らないことで、施工内容を単純化できるため、改修費用を抑えることが可能。これにより、家賃を低く設定することで、経済的に苦しい若年層世帯の家賃負担を軽減することが可能となる。